

# フィールド風

(現場)からの

宮田守男

小谷村から、雪の下で越冬させて収穫するキャベツ「雪中甘藍かんらん」の話題が聞こえてくる。雪の下は気温が零度近くに保たれるためキャベツは凍

る事が無く、鮮やかな緑色を保ちながら熟成されて甘みが増し、味が良いための需要が増しているとの報道。今、この時期、雪下キャベツの名称で北海道や東北地方でも栽培されている野菜だ。包丁を入ると「ざっくり」といい音を立て、しかも甘いのでわが家の冬の食卓でも、温野菜や鍋・シチューなどで活躍していて、無くてはならない食材だ。

種子によって栽培が地域に普及した思い出がある。だが、栽培には幾つかの問題もあった。雪を掘り起こしての収穫作業。収穫時に近くまで車が近寄れるのか。女性中心の野菜栽培の現状で、人力だ

種子によって栽培が普及しなかった歴史があった。小谷村では、地域農業生産組合で生産を続けていたが、労働力に乏しかった販売額の確保の明い話題は、残念ながら伝わってこない。地域にあった野菜

に影響する気象などの条件などにより、栽培方法が異なるのが難しさだ。今回紹介するのは、宮田流の栽培の考え方だ。種子は、耐寒・低温肥大性に優れた栽培しやすい中晩生種の「キャベツ・四季穫」

で、細毛根が切断され肥大による玉割れを防ぐ効果だ。そして根を切断しないため鮮度が保たれるのだ。栽培農地を輪作する事も容易になる。

方法を模索して、大北地域に、キャベツ有と云われる、楽しみが地域に広がる事を楽しみにしている。(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上)

## 話題の雪中カンランを多くの農家で栽培できるか考えてみませんか

この食材を活用したいと、真剣に取り組みを開始した昭和40年代、大北農協の農業技術指導員横山嘉政さんが、大北地域に紹介した「雪中カンラン」の

除雪重機の経費が採算ベースとなるのか。しかもキャベツは、アブラナ科アブラナ属の連作を好まない野菜。耕作地を継続して確保できるのか。色々な課題に直面し、地域全体に

栽培の方法が無いかと考えながら続けているわが家の雪中カンランづくりを紹介して、こんな考えもあるのだと思っていたら、なんと紹介する。

野菜栽培は、出荷用か、自家用か。耕作地に直直し、地域全体に

収穫時期を考えると、8月中旬に定植作業。降雪時期を勘案して、根を付けたまま引き抜き収穫して、家近くの畑に仮植して、1月後半から2月に収穫。メリックトは、収穫が容易な事と、一度引き抜くこと



雪を除いての収穫作業、いつもと異なる積雪状態に早期の雪解けが心配になる